

# バイオリソース整備戦略のための報告書 概要

参考1-5

## 第1章 バイオリソースの意義および整備の必要性

- バイオリソースはライフサイエンス研究の基盤であること、生き物であることから、継続的に保存して研究コミュニティが共有できる体制作りが必要。
- 欧米は網羅的・戦略的なバイオリソース開発を進めており、我が国もバイオリソースの戦略的な確保等を行うことが、国際戦略上も大きな意義。
- 第3期科学技術基本計画において、2010年に世界最高水準を目指して重点整備を進めることとされている。

## 第2章 国内外のバイオリソースの現状と動向

### 我が国におけるバイオリソース整備の現状

- 文部科学省において平成14年度よりナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）を実施。24の中核機関と情報センターを中心に、有用なバイオリソースを整備、提供。
- 他府省においても、各々の目的に沿ったリソース事業を推進。

### 海外の動向

- 欧米では、リサーチ・グラントとは別枠のリソース・グラントを用意。
- アジア・アフリカ諸国は、自国産のリソースの生物多様性条約等に基づく利益配分を確保する方向。また、中国、韓国等は、欧米や我が国に追いつくべく投資開始。

## 第3章 バイオリソース事業の今後に向けた課題と方向性について

### 1. 基本的な考え方

- (1) 研究開発を支え、先導するバイオリソースへ
- (2) バイオリソース事業の継続性の確保
- (3) 事業の質的向上に向けた取り組み
- (4) 大学・研究機関からの支援の充実

### 2. バイオリソース事業の今後の方向性

- (1) 収集・保存・提供
  - 時代に即したバイオリソースの整備、動物愛護の観点や経済的な効率を考慮した数量設定、研究利用に耐え得る品質の維持を行う。
- (2) 開発事業
  - 収集・保存・提供等に係わる基盤的な技術開発、ゲノム関連情報を始めとするバイオリソースの付加価値向上のための開発を行う。
  - 競争的資金で作製されたバイオリソースを確保するとともに、国家戦略上、優先度の高いものに限定して基盤整備としてのバイオリソースの開発を行うことを検討する。
- (3) バイオリソース関連情報の整備
  - 情報センターと各中核機関との連携を強化し、利便性の高い情報ネットワークを構築する。
- (4) 資金の継続的な確保
  - 長期的視点から、リソース・グラント等の方策を検討する。
- (5) 人材養成
  - 事業に明確な目的意識と使命感を持った後継者を育成する。
- (6) 国際貢献・国際戦略
  - 国際社会との協調・競争を考慮して、プロジェクトを推進する。

### 3. バイオリソース事業の今後の運営推進体制

- (1) 集中型と分散型
  - バイオリソースの特性や施設等の状況に応じて決定。
- (2) 中核機関の設立母体の支援
  - 継続的な事業の推進のためには、中核機関の設立母体による人的・施設の支援が必要であり、インセンティブを付与する方策等が必要。
- (3) 研究コミュニティとの連携
  - 研究コミュニティからの意見や研究成果の報告等のフィードバックが必要。
- (4) オールジャパンの連携体制
  - 産業応用やバックアップ体制整備等の推進。

### 4. 個別の状況に応じた事業推進の方向性

- (1) 先進的なバイオリソース
  - ニーズの高いものへの絞り込み、新規開発への着手
- (2) 発展途上のバイオリソース
  - ニーズの高いものの充実、研究コミュニティの拡大
- (3) 発展が見込まれるバイオリソース
  - 体制の整備、研究コミュニティの拡大。
- (4) 維持の必要なリソース
  - 長期的視点で評価して必要なものを維持・提供。